

方言アクセントから再建される日琉祖語の 3 拍名詞類別語彙

大門知樹

祖語に再建される語アクセントの対立グループである類をめぐり、松森晶子 (2000) 「琉球の多型アクセント体系についての一考察：琉球祖語における類別語彙 3 拍語の合流の仕方」(『国語学』 51-1) によれば、琉球祖語において 3 拍名詞は 4 類と 5 類がそれぞれ二つの型に分かれ、 $1 \cdot 2 / 4 \cdot 5 / 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 7$ という類の分裂と統合が起きているとされる。類別語彙には金田一春彦 (1974) 『国語アクセントの史的・研究：原理と方法』(塙書房) pp. 62-73 掲載の通称「金田一語類」が広く使われているが、金田一語類は 3 拍名詞において本土諸方言で対応の例外となる語が多い。一方で、上野善道 (2006) 「日本語アクセントの再建」(『言語研究』 130) では金田一語類の 5 類と 7 類が二つの類に分けられているが、それぞれの所属語彙は明らかでない。

本発表では、日本語諸方言の比較により、日本祖語に再建される 3 拍名詞の 1 類, 2 類, 4 類, 5a 類, 5b 類, 6 類, 7a 類, 7b 類の類別語彙を示し、それらを琉球語諸方言と比較した。その上で日本祖語の各類と琉球祖語に再建される A 類, B 類, C 類の対応関係を検討した結果、日本祖語の 4 類および 5a 類は基本的に琉球祖語の B 類と対応しており、C 類対応の語は例外的存在であることが分かった。また 2 類は、数詞+ツの構造を持つ語のみが所属しており、特殊な類であった。加えて、5b 類の 7 語のうち、6 語は琉球語諸方言には全く分布しないか少数の方言にしか分布せず、琉球祖語に 5b 類に対応する語群は再建されなかった。7a 類は 1 語「蚕」のみが琉球語諸方言でのアクセント型の対応が規則的だが、分節音の対応から琉球祖語よりも後の時代の借用語である可能性が高い。この結果から本発表では、5b 類と 7a 類は日琉祖語には存在しない類で、日琉祖語から日本祖語までの間に新たに発生した類であるという仮説を提示する。